

活用事例	2 3 昼休みに地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】地震・津波対応避難訓練の三段階での実施（通常・ブラインド方式・二次避難）		
学校名	周防大島町立島中小学校		
日時	平成25年2月19日（火） 13:15～14:00		
場所	日良居住宅団地上高台	参加者	児童・教職員

1 訓練のねらい

- (1) 地震発生及び津波の襲来に際して、児童が各自で判断し安全迅速に避難できるようにする。
- (2) 安全迅速に避難するための知識、技能、態度を身に付けることができるようにする。

2 昨年度の訓練の概要

本校の敷地は、海岸から50m以内の場所にある。町の高潮ハザードマップによると、高潮が起きた場合、2mから5mの浸水が想定される区域である。そこで、高潮や津波の襲来を想定した避難訓練を計画的・段階的に実施することが必要であると考えた。

第1回避難訓練（地震・津波対応）

- (1) 内容
 - ・ 予告して訓練を実施する。
 - ・ 第1次避難場所に学級ごとに移動し、人員を確認後、第2次避難場所に並んで避難する。
- (2) 成果と課題
 - ・ 第1次、第2次避難場所を設定し、地震・津波対応の避難の手順や役割について教職員間で共通理解を図ることができた。
 - ・ 児童に避難場所や避難方法について知らせ、短い時間で全員が避難することができた。
 - ・ より実地的な訓練を想定し、緊迫感のある訓練にする必要がある。



第2回避難訓練（地震・津波対応）

- (1) 内容
 - ・ 避難訓練の日付は知らせるが、時刻は予告しないで訓練を実施する。
 - ・ 休み時間に実施し、各自で第1次避難場所に避難した後、全員で並んで第2次避難場所に避難する。
- (2) 成果と課題
 - ・ 休み時間に実施したため、児童が各自で判断して行動する場面を設定することができ、これまでとは違った緊迫感のある訓練を実施することができた。
 - ・ 次回は、第2次避難場所に各自で直接避難する訓練を実施するとよい。



3 本年度の訓練の概要

- 1 本年度の訓練の内容
 - ・ 昼休みに地震が発生。津波警報発令によって、各自で第2次避難場所に直接避難する。
 - ・ 児童への予告を行わずに実施する。

2 避難の実手順と役割分担

(1) 校内放送（ハンドマイク使用）

「先ほど南海沖で大きな地震があり、津波警報が発令されました。児童の皆さんは、近くにいる先生の指示に従って避難してください。避難場所は、白いガードレールのある場所です。」

(2) 放送後の先生方の動き

校長・・・国道の横断歩道に直行、先頭の児童を避難場所に誘導する。

※ 児童名簿、携帯電話持参

A教諭・・・国道の横断歩道に直行、児童を安全に横断させる。

教頭・・・門を開け、学校前の横断歩道で児童を安全に横断させる。※ 携帯電話持参

C教諭到着後交代。校内の見回り、児童への声かけ。校舎内の最終チェック。

B教諭・・・校舎内（1・2階）を見回り、校舎内の児童を避難場所へ誘導する。

C教諭・・・放送後、運動場で大声で誘導。学校前の横断歩道で児童を安全に横断させる。

D教諭、E支援員、F支援員・・・近くにいる児童を避難場所へ誘導する。

G教諭・・・なかよし学級の2人を確認し、2人を避難場所へ誘導する。

養護教諭・・・必要な救護道具を準備し、保健室在室の児童を避難場所へ誘導する。

事務職員・・・職員室に待機して情報収集を行い、最後に教頭と校舎から出る。

※ 携帯電話 ラジオ持参 ※ 訓練の場合は、その後職員室へ

教頭、C教諭・・・学校前横断歩道で待機。校長と電話連絡で全員の避難を確認する。

確認後、国道横断歩道のA教諭と合流し、避難場所へ移動する。

(3) 第2次避難場所（日良居住宅団地上高台）に避難・整列

① 避難経路

- ・校舎の破損等の危険が予測される場合は、できるだけ早く校舎から離れるように安全な経路を選択する。
- ・児童玄関側屋根は倒壊の危険性が高いので避ける。

② 服装等

- ・校舎内にいた児童は上ばきのみまま避難する。赤白ぼうしをかぶる。

③ 避難場所まで

- ・安全な道路横断について十分に配慮し、かけ足で避難する。

④ 人員確認・人員報告

- ・校長は教頭に電話連絡をする。

⑤ 全教職員、全児童の避難完了

⑥ 校長先生の話



4 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ 地震発生・津波襲来を想定した避難訓練を3回実施したことにより、児童は津波に対する避難方法を段階的に身に付けることができた。
- ◇ 予告しないで休み時間に避難訓練を実施したり、各自で第2次避難場所に避難したりする等、実際の災害に対応した訓練を行うことによって、児童、教職員共に緊迫感をもった訓練を行うことができた。特に指示をしたわけではなかったが、坂道を駆け上がる時、高学年の児童が低学年の児童の手を引き、気遣いながら避難する姿が見られた。
- ◇ 避難訓練を繰り返すことを通して、教職員の危機管理意識を高めることができた。

【課題】

- ◆ 教職員の役割や時間帯を変える等、様々な想定で避難訓練を実施することによって、実際の災害への対応力を高める。
- ◆ 隣接している保育園との合同避難訓練や地域の防災訓練と連携した避難訓練を実施することにより、地域での防災意識の向上を図る。
- ◆ 第2次避難場所から地域の避難場所への移動、保護者への引き渡し等、実際に災害が起きたことを想定した避難訓練を実施する。